

(案) 第2回 よこすか障害者計画等検討部会

日 時：令和2年(2020年)7月21日(火)15時00分から16時00分

会 場：横須賀市職員厚生会館 4階第3研修室

出席委員 笹田部会長、市川職務代理者、小澤委員、海原委員、北岡委員、五本木委員、三瓶委員、
立石委員、山邊委員、佐藤委員、脇委員、奥津委員、山田委員、富澤委員

事務局 障害福祉課 網代係長、宮川主任、大森、こども家庭支援課 高橋係長

議 題 今後の進め方(会議日程)について ほか 別紙次第のとおり

配布資料 別紙次第

審議概要

1 開会、資料確認、定数報告、傍聴人数報告

- ①事務局(網代係長)が司会となり開会した
- ②配布資料を確認した
- ③定員数14名中、14名の出席があり、会議が成立している旨を報告した
- ④3名から傍聴の申し出があり、全員の傍聴を許可した旨を報告した

2 委員等自己紹介

- ①各委員の自己紹介を行った。

3 部会長の選出及び職務代理者の指名

- ①事務局から、部会長の選出について立候補または推薦を求めた
- ②海原委員から、笹田委員を部会長に推薦する発言があった
- ③笹田委員に意向確認したところ、就任を承諾いただき、異議が出ず、部会長は笹田委員に決定した
- ④笹田部会長が市川委員を職務代理者に指名した

4 議 事

- (1) 今後の進め方(会議日程)について
- (2) よこすか障害者計画等の概要について
- (3) アンケート調査の実施について
- ①事務局より資料1、資料2、資料3に基づき一括で説明が行われた
- ②各委員からは質疑、意見はなかったため議事は終了した

- (4) よこすか障害者計画等のアウトラインについて
- ①事務局より資料4-1、4-2、4-3に基づき説明が行われた
- ②各委員より次のような質疑が行われた

【立石委員】

資料4-1の5ページの「オ 発達障害者支援の一層の充実」で、文科省の調査による支援が始まったという経過があり、発達障害者支援法上、各都道府県と政令指定都市に各1か所、発達障害者支援センターを設置することになっていると思う。

今、私は相談室「あすなろ」(以下、「あすなろ」という)にお世話になっているが、あすなろは、もとも知的障害の相談施設であって発達障害の相談施設ではない。もちろん知的障害を伴った発達障害という形で自閉症の方は受け入れているが、当事者会に参加して聞いてみると、知的障害を伴う発達障害はまた別物だと、障害当事者でも症状がばらばらで、個別的支援が必要ということがある。

もちろん国の方針に逆らえないのは十分わかるが、横須賀市独自で発達障害支援センターを1か所でも作っていただけたらと思っている。当事者会のイベントでも各市町村1か所あることが望ましいのではないかということで意見が一致した。どうしても子どもの支援が中心になってしまうが、大人になって就労に支障が出てやめるか、隠したまま働かざるを得ないと苦しんでいる当事者が多い。そのことをどこに相談したらよいかかわからないというのが当事者の現状である。それを分かりやすくするために、独自に成人向けの発達支援センターを1か所お願いしたい。相談員は個人的には臨床心理士が良いと思っている。

【事務局】

おっしゃるとおり、国の指針では発達障害者支援センターの設置は都道府県または政令指定都市となっている。本市の現状だが、神奈川県が設置する発達障害支援センターかながわA(エース)を利用させてもらう形になっている。電話やメール、ファックス等で個別の相談を受け付けたり、後方支援としてあすなろを含めた相談支援機関をバックアップしていると聞いている。

【立石委員】

あすなろに伺ったところ、重要な計画相談も多くなってきており、KANAC(平成28年度末に終了した神奈川県の発達障害専門相談員配置事業)が受けていた相談も引き受けているらしい。かなり多くなってしまい、計画相談もしにくい状況となっているようなので、できれば新しく設置していただきたい。

【海原委員】

この新しい計画を、利用者に分かりやすい計画にしたいという部分については、非常にありがたいが、今までの課題の分析は必要だと思う。案だからこういうようになっているのかもしれないが、国の考え方が連なっており、現状、横須賀市が何をしなければいけないのか、見直しをしていくときに課題分析がどのようになっている、今どこが足りない、あるいはここは達成できたから次に行こう、というようなものが必要だと思う。この最後の福祉サービスを低下させないための取り組みで、「本市の行政改革大綱の主旨を踏まえて、費用対効果の検証などによるより良い各事業の見直しなどを積極的に行ってまいります」と書いてあるが、実際にサービスを使っている人が、そこに対してどのような不便さを感じているのか、それはどのようにすれば解消できるのか、というようなことがないと、利用者に分かりやすくなるのに、少しもったいないという感じがする。そこはこれから計画を作っていく中で検討していただきたいと思っている。これは今答えが欲しいというよりも、そういうものも踏まえて計画を作っていただきたいと思

うし、私たちも実際に支援をしている中で、「こう変えたらこのお金が有効に使えるのに」と感じるころについては、積極的に発言をさせてもらおうと思っている。

【市川委員】

もともと第3章は課題の分析の章だったと思う。「体系と方向性」というのは現状の事業のことを丁寧に説明したり、国の方向性等があればよいかと思うが、その前段として横須賀市に住んでいる人が自分たちの身近な生活として受け止めるときに、自分の身近でこれが欲しいと思っているとか足りないと思っていることが、国の見直しの動向の中やアンケートの中から出てくるものだと思う。私はこの第3章の「体系と方向性」の前にコンパクトな分かりやすい文で良いので、現状の把握と課題というものが欲しいと思う。

【事務局】

ご指摘のとおり、編集方針として可能な限り簡単な表現を用いることにしている。課題の頭出しなどは今回行っていない。何らかの課題があつてこういった文章になっているということは言える。ただし、課題は委員の間で共有すべきだと思っているので、次回に間に合わないが、第4回くらいで、事務局で各事業について現状と課題をピックアップして皆様にお示ししたうえ、文面にも課題を加えていこうと考えている。

【笹田部会長】

意見が出たので、それらを踏まえて、また、課題を加えた資料を作っていただき検討していく準備等をお願いしたい。

(5) その他
特になし

閉 会

以上